

六 識 事

文永期

	心		
眼識	意	肉・天・慧・法・仏眼	
耳識		肉・天・慧・法・仏耳	
鼻識		肉・天・慧・法・仏鼻	
知	舌識		見
身識		肉身・天身・慧身・法身・仏身	
意識			

正説・^{りょうげ}領解・述成・授記・歡喜

但^{しょうしゃく}彰灼に二乗に授記して顕露分明に長遠の寿を説くことを知る。^{ここ}茲の一座に於て聞知せざること無し。故に名づけて顕と為す。

大乘を学ばん者は肉眼有りとは雖も名づけて仏眼と為す。耳鼻の五根例して亦是くの如し。

魔梵釈女

菩薩処胎経「^{ほっしょう}法性^{しんく}は大海の如く是非有るを説かず。凡夫賢聖の人は唯心垢の滅する在り。平等にして高下無く、証を取る^{たなごころ}こと掌を反すが如し」と。

理具

加持

顕徳



六識事

知覺 聞見

